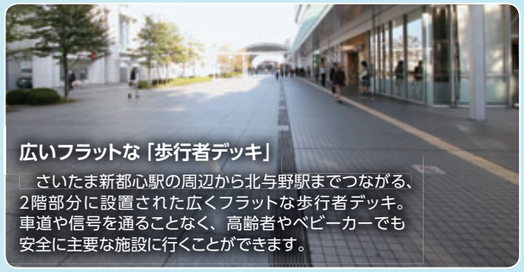
バリアフリー法(注)が制定されて5年。交通機関や公共施設などでは着実にバリアフリー化が進められていますが、ハード面だけを整備しても携わる人の意識が高まらなければ、本当の意味でのバリアフリーとはいえません。人が支えることでハード、ソフト両面でのバリアフリー化を実現しているさいたま新都心の取り組みをご紹介します。

人の心が支える「バリアフリー」のまち

ご存知でしたか?

さいたま新都心のバリアフリー実例



広いフラットな「歩行者デッキ」

さいたま新都心駅の周辺から北与野駅までつながる、2階部分に設置された広くフラットな歩行者デッキ。車道や信号を通ることなく、高齢者やベビーカーでも安全に主要な施設に行くことができます。

点字ブロック・雨よけシェルター

音声誘導装置

車椅子対応自動販売機・公衆電話

絵記号「誰もが一目でわかる案内板」

ボランティア60数名がイキイキと活動!

ボランティアは、現在60数名が登録しています。新メンバーは、「新しいことを覚えて、新鮮!」「こんな世界、知らなかった!」とイキイキと活動。立ち上がりからのメンバーも多く、「市の取り組みを支えていることを誇りに、モチベーションを落とさず続けていきたいです」と意気込みます。

歌声ひろば

歌を通じて交流が広がるけやきひろばの名物イベント

けやきひろば1階プラザ2では4月から11月まで毎月1回、童謡や唱歌などを合唱する「歌声ひろば」が開かれています。約6年前から始まり最初は10〜20人程度でしたが、誰でも参加でき、初めて一人で行っても大勢で合唱することで一体感が味わえ楽しめるとあって、今では800人以上も集まるまでになりました。見沼区からバスと電車を乗り継いで来る人や、ここで知り合った仲間との交流を楽しみにしている人もいます。プログラム作成、会場設営、進行などはすべてボランティアが担当。イベントを通して幅広い年齢層が集える、ソフト面のバリアフリーを目指しています。

目隠しして見えない状態で歩くのって、大変!

施設見学と擬似体験学習

バリアフリー設備やサポートの大切さを実感

さいたま新都心では、多くの人にバリアフリーへの意識を高めてもらうために、学校やグループ向けに障害者の擬似体験、施設の見学会などを行っています。取材した日は、中尾小学校の体験日。ボランティアが説明や介助を行い体験が進む中、子どもたちからは「車椅子を動かすのって難しい」「目が見えないことがこんなに怖いなんて」などの声が上がります。障害のある人が近くで困っていたらどう手助けすればよいか、実際に体験をすることで、具体的に理解できたようです。

すべての人が安心して快適にすごせるまちへ

さいたま新都心では、まちびらき前の平成9年2月、全国に先駆けて「バリアフリー都市宣言」を行いました。人と人のふれあいをテーマに、子どもからお年寄りまで、障害のある人も外国人も、訪れるすべての人が安心して快適に過ごせるまちづくりを目指しています。

新都心には、幅が広く段差のない歩行者デッキや視覚障害者用音声誘導装置、車椅子が向きを変えずに乗降できるエレベーターなど、バリアフリー設備が充実しています。

また、より多くの人に設備を活用してもらい新都心に親しんでもらうため、まちびらき当初より「さいたま新都心バリアフリーまちづくりボランティア」が継続的な活動を行っています。新都心の施設案内のほか、補助器具の貸出し、イベントの企画運営、駅前の飾りつけなど多彩。こうした活動によってふれあいの場が生まれ、すべての人にやさしいまちが実現しています。

(注) バリアフリー法…高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

バリアフリーのまちづくりについて考えてみよう

バリアフリー施設の充実はもちろん、設備の意味を皆が理解することができれば、いろいろな立場の人々を思いやる気持ちにつながり、快適な空間が生まれます。ボランティアの活動は、ハード面だけでなくソフト面を大切にした、「心のバリアフリー」を伝えようとしています。

本当のバリアフリーのまちづくりには、人の支えが欠かせません。皆さんもどうしていけばよいか、身近なところから考えてみませんか?

ここに聞こう!

ふれあいプラザ
☎ 600-3193

さいたま新都心のバリアフリー活動の拠点となっているのが、けやきひろば1階の「ふれあいプラザ」。ボランティアが常駐し、案内や手助け、見学、体験などを受け付けています。
http://www17.ocn.ne.jp/~furepura/

問合せ
都心整備部 計画管理課
☎829−1577